

拉致問題解決に向けて、 わたしたちにできること

1 北朝鮮による拉致問題とは

1970年代から1980年代にかけて、北朝鮮による日本人拉致が多発し、現在17名が政府によって拉致被害者として認定されています。

2002年9月の平壤で行われた日朝首脳会談で、北朝鮮側が長年否定していた日本人の拉致を初めて認め、謝罪し、再発の防止を約束してから20年以上が経過しました。

政府認定の拉致被害者17名の中には、失踪当時(1980年6月)大阪市内の飲食店で勤務していた原勅晁さんも含まれており、大阪に暮らすわたしたちにとっても切実な問題です。

拉致問題は北朝鮮という国家による重大な人権侵害です。

しかしながら在日韓国・朝鮮人や北朝鮮の一般の国民には何の責任もありません。

拉致問題について考える際には、思い込みや偏見等による差別やヘイトスピーチにつながらないようにすることが必要です。

政府認定の拉致被害者17名

1977年拉致

久米 裕さん《当時52歳》
松本 京子さん《当時29歳》
横田 めぐみさん《当時13歳》

1978年拉致

田中 実さん《当時28歳》
田口 八重子さん《当時22歳》
地村 保志さん《当時23歳》
地村(濱本) 富貴恵さん《当時23歳》
蓮池 薫さん《当時20歳》
蓮池(奥土) 祐木子さん《当時22歳》
市川 修一さん《当時23歳》
増元 るみ子さん《当時24歳》

曾我 ひとみさん《当時19歳》
曾我 ミヨシさん《当時46歳》

1980年拉致

石岡 亨さん《当時22歳》
松木 薫さん《当時26歳》
原 勅晁さん《当時43歳》

1983年拉致

有本 恵子さん《当時23歳》

このほかにも、いわゆる特定失踪者も含め、
拉致の可能性を完全には排除できない人がいます。

2 拉致問題解決に向けて

拉致問題の解決のためには、政府の外交をはじめとするさまざまな取組はもとより、わたしたち一人ひとりが関心と認識を深め、「決して許さない」「必ず取り戻す」との世論を高めていくことが必要です。

政府の姿勢・取組

政府としては、北朝鮮から納得のいく説明や証拠の提示がない以上、安否不明の拉致被害者は全て生存しているとの前提に立ち、北朝鮮側に対し、全ての被害者の安全確保及び即時帰国、真相究明並びに拉致実行犯の引渡しを強く要求しています。

そして、全ての拉致被害者の一刻も早い帰国を実現するべく、政府の総力を挙げて最大限の努力を尽くすとしています。

拉致問題をはじめとする北朝鮮当局による人権侵害問題に関する国民の認識を深めるとともに、国際社会と連携しつつ拉致問題等の実態を解明し、その抑止を図ることを目的として、2006年6月に「拉致問題その他北朝鮮当局による人権侵害問題への対処に関する法律」が公布・施行され、拉致問題等の解決に向けた国の責務のほか、拉致問題等の啓発を図る国及び地方公共団体の責務、**北朝鮮人権侵害問題啓発週間(12月10日～16日)**の創設及び同週間での国・地方公共団体の啓発事業の実施等が定められました。

政府としては、小冊子やポスターの配布、拉致問題啓発映画やアニメの上映のほか、シンポジウムの開催など国内外に拉致問題の解決を訴えています。

さらに、拉致問題について触れる機会の少なかった若い世代への啓発として「拉致問題に関する中学生サミット」や中高生を対象とした作文コンクール等も実施しています。



大阪府の取組

大阪府では、「北朝鮮人権侵害問題啓発週間」を中心に、府内市町村等と連携しながら、拉致問題の早期解決に向けた機運を高めるため、ブルーリボンライトアップや、デジタルサイネージ放映、街頭キャンペーン等、さまざまな取組を実施しています。

ブルーリボンライトアップ



万博記念公園・太陽の塔



大阪城天守閣

他の取組については、
大阪府ホームページをご覧ください。

北朝鮮による拉致問題 大阪府



デジタルサイネージ放映



令和6年度使用のもの

梅田駅周辺や府内施設での放映を実施

府内市町村の取組

市町村広報誌に啓発記事を掲載

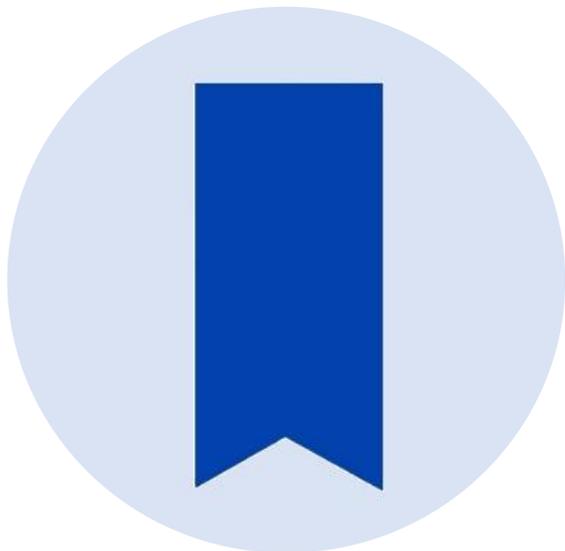
啓発アニメの上映会・舞台劇
拉致被害者による講演会の実施

デジタルサイネージにメッセージを表示

啓発パネル展示を実施

公用車への啓発マグネットの貼り付け

ブルーリボンを知っていますか？



拉致被害者の救出を求める国民運動は、ブルーリボンと青色を運動のシンボルにしています。青色は、被害者の祖国日本と北朝鮮を隔てる「**日本海の青**」と、被害者と御家族を結んでいる「**青い空**」をイメージしています。「**誰もが北朝鮮による拉致被害者の生存と救出を信じる意思表示**」として、青いリボンを着けようという運動がなされています。

わたしたちにできること

拉致問題は昔の話ではありません。

今も、北朝鮮で助けを待っている人、大切な家族を助けるため懸命に活動している被害者の御家族がいます。

1日も早く全ての拉致被害者を取り戻すため、わたしたちにもできることがあります。

もっと拉致問題を知ろう。そして伝えていこう。

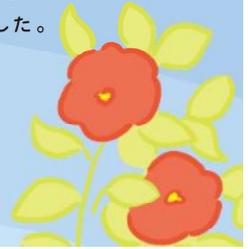


政府拉致問題対策本部では、拉致問題に対する理解を深めていただくため、パンフレットや動画コンテンツ等、拉致問題啓発活動資料を制作しています。

拉致問題について知り、関心と理解を深めること、そして周りに伝えること。それは拉致問題解決のためにわたしたちができることです。

家族が拉致されたまま、
帰ってこない…

拉致は、本人が望まないのに連れ去る事です。
1970年代から1980年代にかけて、
北朝鮮が多くの日本人を拉致しました。



いってきます！

いつものように、朝ご飯を食べて、学校へ。
いつものように、バドミントン部の練習を終えて
いつものように、元気に帰宅するはずでした。



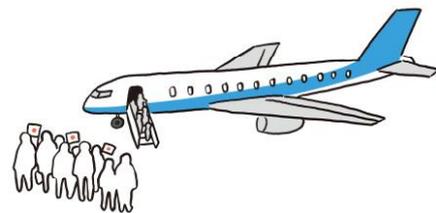
1977年11月15日の夕方、新潟の街から忽然と姿を消した、
横田めぐみさん。まだ、13歳でした。

めぐみさんと同じように、
多くの日本人が北朝鮮に拉致されたままです。



日本政府は、めぐみさんを含む17名を拉致被害者として認定しています。
しかし、拉致された可能性を否定できない800名以上についても捜査・調査を続けています。

日本は北朝鮮に強く働きかけ、
5名が帰国しました。



一刻も早く返してほしい

北朝鮮は、日本人を拉致したことを
長い間、認めていませんでしたが、
2002年9月、初めて認め、謝罪しました。
そして、拉致被害者17名のうち、5名が
24年の歳月を経て家族が待つ日本に
帰国しました。



すべての拉致被害者の帰国を！

まだ多くの人々が拉致されたままです。
日本は北朝鮮に強く抗議し、
すべての拉致被害者の
一日も早い帰国を求めています。



北朝鮮が示した証拠は
納得できない！

生きている拉致被害者は
全員日本に帰国した

残りの人は死亡したか、
北朝鮮に入っていない



北朝鮮は「もう解決したこと」と説明し、なかなか動こうとしません。
証拠として示されたものは、どれも不自然で矛盾も多く、納得できないものばかりです。

日本政府は、各国に対し、
理解と協力を求めています。

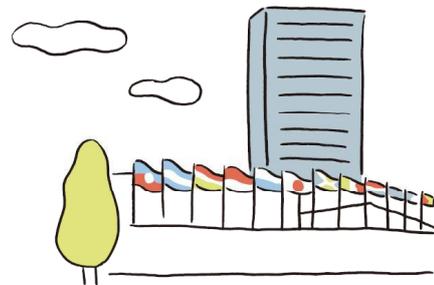


北朝鮮は、2014年5月、拉致の可能性を否定できない人の
再調査を約束しましたが、その約束は果たされなままです。
北朝鮮に囚われた拉致被害者たちは、今もなお、救出を待っています。
日本政府は、拉致問題の解決に向けて
北朝鮮に対してさまざまな形で働きかけています。

国際社会も、北朝鮮に対して
拉致被害者の帰国を強く求めています。

決してあきらめない

世界各国はどう思っているの？



北朝鮮による拉致被害を受けたのは日本人だけではなく。
国連によると、韓国、レバノン、タイ、マレーシア、シンガポール、
ルーマニア、フランス、イタリア、オランダ、中国などでも
北朝鮮による拉致被害が確認されています。

わたしたちに何ができるの？

拉致問題は決して、昔の話ではありません。



「日本に、家族のもとに、帰りたい」「大切な家族を取り戻したい」
私たちは、その切実な思いに寄り添い、
一日も早くすべての拉致被害者が帰国できるよう、
一人ひとりが関心を寄せ続け、伝え合うことが、
解決に向けて、大きな力となります。

大の字に寝っ転がって、
「自由だよー！」って言わせてあげたい



もっと拉致問題を知ろう。
そして、伝えていこう。

パソコン、タブレット、
スマートフォンなどで
閲覧できます



拉致問題の動画チャンネルがあります。

YouTube公式動画チャンネルでは、アニメ「めぐみ」や
拉致被害者御家族のメッセージ動画などを配信しています。

 <https://www.youtube.com/c/rachitaichannel>

アニメ「めぐみ」(拉致問題啓発アニメ)



横田めぐみさんが拉致された事件を題材に、残された家族の苦悩や
懸命な救出活動を描いた25分のドキュメンタリー・アニメです。

キャスト・高山みなみ(横田めぐみ)、山寺宏一(横田猛)、深見梨加(横田早紀江)

電子図書館もご利用ください。

『らちもんだいたいさくほんぶ電子図書館』
<https://web.d-library.jp/rachitai/>

らちもんだい
たいさくほんぶ  電子図書館



貸出作品

漫画「母が拉致された時
僕はまだ1歳だった」



拉致被害者の田口
八重子さんの帰りを
待ち続けている長
男の飯塚耕一郎氏
に焦点をあてた漫画
です。

小学校、中学校、高等学校、特別支援学校(義務教育学校、中等教育学校含む)に
無償貸し出しをしています。